

## 第5分科会

### 【互いに学び合う、縦割りクラスでの一人ひとりの育ち】

指導助言者	松尾 奈美
司会者	西 知恵
発表者	上代 菜月
記録者	石飛 恵子 森脇 尚子

#### 記

#### 1. 発表の概要

##### (1) 主題設定理由

幼稚園は子どもが家庭から離れ、初めて経験する集団生活です。子どもは環境の中からいろいろな事を吸収し、成長していきます。その中でも教師や友だちといった人との関わりが大切であることは言うまでもなく、他者との関わりの中でどのように学び合い、成長しているのか、一人ひとりの育ちについての学びを深めるため研究を進めていくこととしました。

##### (2) 取り組みについて

本園ではキリスト教の精神に基づいて幼児教育に尽力しています。

モンテッソーリ教育を保育の柱とし、教具を使った自主選択活動や縦割り保育は本園の特色です。自主選択活動では自らが選んだ教具で活動をします。その日に完成する活動もあれば何日か続けて活動が必要な場合もあります。根気がある作業を通してやり遂げた時の達成感や自信は子ども達の成長する上での大きな糧となると考えています。

また、縦割り保育ならではの異年齢同志の生活の中では、年上の子が年下の子を慈しみ、年下の子は年上の子への憧れや尊敬が自然と生まれています。そのような子ども達の園生活の中で子ども達が互いに教え合い、学び合っている姿をよく見かけます。これらのことから一人ひとりの子ども達の可能性がどのように引き出され、お互いの学びとなっているのか。そして教師がそれをどう受け止め、援助していくかを考え、どのように保育に生かしていくのか職員間で話し合いを進めています。

### (3) 実践例

#### ～事例1～

##### ◎年長児 K 君と年少児 S 君の初めての出会いから

K 君・・・年少児の頃から新しい環境（人・物・場所）が苦手で、こだわりも強くあり、自分がしていることを邪魔されたり、自分の思うやり方でないと癇癢を起すことがあった。また、自分の気持ちをどのように表現し、友だちや保育者に伝えたらいいのか悩み葛藤している姿が見られていた。最初は保育者との関わりを中心としてお友だちとの関りを丁寧に見ていった。

2023年4月 K 君は年中組から年長組になる事を楽しみにし、期待感をもって新学期を迎えた。クラス替え当初は落ち着かない様子があり、保育者との関わりを求める姿が見られていた。そして、新しいクラスになり2週間たないうちに入園式を迎えた。

S 君・・・新しい環境(特に人)に警戒心をもっており、どこか不安な表情を浮かべていた。はじめてすることにすぐに「いやだ!」「やらない」「行かない」と言い慎重に物事を考えている様子があった。

#### ☆S 君の幼稚園登園1日目の園庭での自由遊びの様子



初めての外遊びで不安そうにしながらも自ら砂場での川づくりに参加しようとする S 君。先に川づくりをしていた K 君は、長いスコップを上手く使いこなせない S 君の様子に気づき、「こっちがいいよ?」と S 君に自分の使っていた短いスコップを渡してあげることができた。それまで、何でも「やだ」と言っていた S 君もすんなり短いスコップに持ち替え川づくりのお手伝いを始めた。また、K 君の考えた水の通り道を S 君が崩してしまった時には、S 君の表情を見ながら少し考え、「掘った砂はこちらですよ～」「ここを掘ってくださ～い」とやわらかい表情・口調で伝えることができた。S 君も初めてのお友だちとの状況に緊張している表情から一変し、K 君の優しい言葉や行動により川づくりを一緒にいきいきと楽しむことができた。

～事例2～

◎年長児 M ちゃんと年少児 K ちゃんのある日の給食での出来事を取り上げてみる。

**Mちゃん**・・・お世話をすることが大好きで、年下の友だちが困っていると率先して助けてあげる姿が見られる。その反面、保育者の様子を見ながら甘えてくる様子も見られている。

**Kちゃん**・・・母親が4月に出産をし、父親と二人で過ごす時間が多かった。また、今までできていたこともやる前からできないと言って甘える様子が見られていた。

☆給食時、片付け中の M ちゃんとサラダに苦戦中の K ちゃんの様子。



給食のサラダを「食べられない」と K ちゃん。保育者と K ちゃんとのやり取りをじっとみていた M ちゃん。保育者が K ちゃんの机から少しの時間離れると、 M ちゃんは K ちゃんの様子を見ながら、食べることができるよう頑張っって声をかける。しかし、「言ってもムリって言って食べてくれない」と保育者に伝えに来る。「今日は食べたくない気分なのかなあ」と話をしながら、何かを考えながら自席に戻った M ちゃん。すると、「キャベツカレーさんにしたら食べれるかもよ？」「これが食べれたら、素敵なお姉さんになれるかもよ～♪」と工夫して声をかける姿が見られた。すると眉間にしわを寄せていた K ちゃんが目をキラキラと輝かせ…「素敵なお姉さん？たのしみー♪」と。初めは M ちゃんが食べさせてあげながら、半分以上のサラダを自分で食べる事ができた。

M ちゃんは自分の声かけで、 K ちゃんが苦手な食べ物を頑張っって食べる事ができたことを心から喜ぶ姿が見られた。

#### (4) 考察

##### ～事例1より～

年長児 K 君は年少児のころから新しい環境にすごく敏感でこだわりも強かったので、特に友だちとの関わりについて気をつけてみていた。自分の気持ちや思っていること、嫌だったことなどを言葉で表現するのが苦手で、思い通りにならないことがあると、抑えられない気持ちをどう伝えればいいのか悩み、葛藤する様子があった。年長児になり最高学年になったという自覚はあるが、クラス替えによる新しい環境になかなか慣れない姿も見られた。そこで、S 君と出会った。以前の K 君であれば自分のしている遊びや遊び方を崩されてしまうと癇癪を起していた。

しかし、事例1から、K 君は夢中になって遊びを楽しみながらも S 君は自分より小さい友だちということ、まだ入園して間もないということをも自分なりに理解し、気にかけていることが分かる。大きなスコップを使っていると、使いやすい小さなスコップを見つけてきて渡してあげたり、自分の考えている場所ではないところを掘られてしまったときも「掘った砂はこちらですよ～」などとやさしい声がけができ、年下の友達への思いやりの気持ちがしっかりと芽生えているということがわかる。また、S 君も K 君から小さなスコップを受取り、優しくしてくれたという安心感と気持ちを分かってもらえたという嬉しさからのびのびと川づくりを楽しむことができたのではないかと考える。

##### ～事例2より～

年長児 M ちゃんは年下の友だちのお世話をしたり、頼られたりすることに喜びを感じ過ぎていた。事例2の、M ちゃんの様子から保育者の動きやことばをよく観察していることがわかる。また、M ちゃんなりにサラダが食べれない年少児 K ちゃんに対して、どのような声をかけてあげたらいいのか、どのような関わりをしたらいいのかをしっかりと考え、実践していることがわかる。M ちゃんの今までの経験や K ちゃんの様子を踏まえたうえで「素敵なお姉さんになれるかもよ～」ということばを選び、そのことばによって K ちゃんが苦手なサラダを食べることができた。最初は「ムリ」と言ってサラダを食べてくれなかった K ちゃんに、諦めず自分から関わり、サラダを食べてくれたことで M ちゃんの喜びと自信につながったのではないかと考える。また、K ちゃんも、一番身近な自分のお姉さん(お相手さん)に励まされ、M ちゃんのことばで心が動き苦手なサラダを食べることができたことはうれしい気持ちだったと思われる。ここで、信頼できるお姉さんの存在を少しずつ感じ始めているのではないかと思う。

## 2. 研究協議

2つのテーマについてグループ協議を行い、話し合ったことについて発表した。

テーマ1 『自園での異年齢児の関わりや、取り組みについて』

テーマ2 『縦割り保育、横割り保育、それぞれの良さについて』

### 1 グループ

- ・年長が未就園児のお昼寝当番に行ったり、給食のお世話をすることがある。
- ・学年別で発表する時に、小さいクラスに行って発表をする時間がある。
- ・年長の行事が多く、関わる時間を設けるのが難しい。

### 2 グループ

- ・無理に関わるのではなく、自然と関わっていることが多い。また、マーチングやバルーンをしている姿を見て憧れている姿が見られる。
- ・年長児も甘えたい時もある。その気持ちも大切にしている。
- ・幼稚園での年長児は園の年長者として自覚をもって活動しているのに小学校に入学すると出来ることも初めからになりギャップを感じる。

### 3 グループ

- ・保育者がしてもらって嬉しい関わり、嫌なことを意識できるよう関わっている。
- ・給食の時間など、保育の中で縦割り活動することもある。
- ・同学年：譲れない部分も・・・ ⇒ 低学年：譲れる
- ・年長児：お世話したい気持ち ⇔ 年少児：自分で頑張りたい気持ち  
保護者がどこまで見守るか、折り合いが難しい。

### 4 グループ

- ・朝の準備や行事の時に関わりを持っている。子ども同士の方が伝わることもある。
- ・保育者が必ず関わらなくても年長さんが関わることでうまく伝わることもある。
- ・縦割り保育の中での子ども達の姿に職員が学ぶこともたくさんある。

### 5 グループ

- ・自由遊びの中で自然に関わりが出来ている。
- ・同年齢の中では我慢してしまう所も下の子といることでゆっくり関わられる。
- ・少子化という社会であるからこそ、意図的に異年齢との関わりを持つことも大事。
- ・年上の子にお世話をしてもらうことで年下の子は優しさを感じることができる。

### 6 グループ

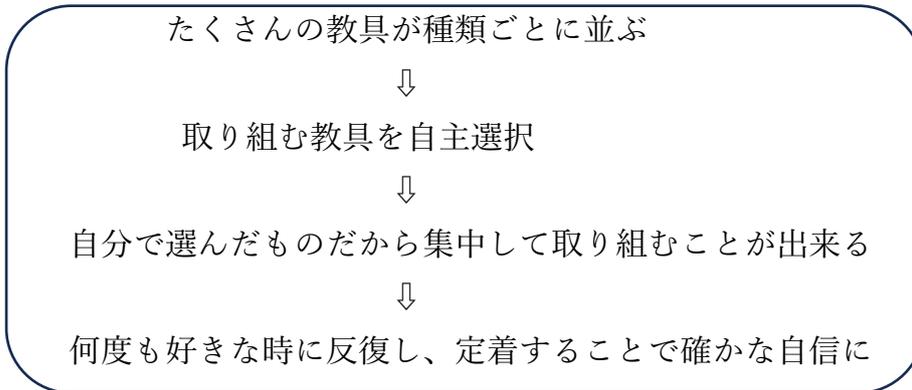
- ・月1、2回縦割りでの給食実施している。
- ・困っているところを見かけると手伝っている姿を見かける。
- ・異年齢との関わりを増やすことで、子どもたち同士で教え合う方が「すごい！」といった憧れなどの気持ちが芽生えて成長につながる。

### 3. 指導助言

～松尾奈美先生より～

#### (1) 松江暁の星幼稚園の園児さんの姿から

※モンテッソーリ教具による自主選択活動の様子から



#### (2) 「自主選択」が育む「自主性」「主体性」

「主体性」がないと・・・

- ・自分が何をしたいのかわからない
- ・粘り強く取り組めない
- ・失敗や間違いを怖がる など

↓

育成すべきは【エージェンシー】

大人からの支持をこなすだけではなく、将来の社旗のあり方について自分事として考え、どのように実現していきたいか、自分で目標を設定し、そのために必要な変化の実現に向けて責任をもって行動できる能力。

#### (3) 異年齢の子どもが学び合うことの意味

暁の星幼稚園の発表から・・・

年長さん：「お相手さんのお世話をするんだ！」と意気込み頼られてる自覚＝自信

年中さん：お世話をしてもらった経験を思い出し、お世話をしている年長さんから関わり方を学ぶ

年少さん：お兄さん、お姉さんと触れ合うことで憧れを持ち、初めての集団生活に対する不安が和らぐ

**互いに良きお手本となり、刺激し合って成長できる**

#### (4) 「待つ」「見守る」ことの捉え直し

子ども達の創造性・主体性・・・といった力は見えにくい力として息づき、発達は連続している。見えにくいけれど着実な成長を促すことが教育の仕事。

年齢や発達段階ごとに、様々な課題に子ども達は向き合うことになるが、その都度主体性をもって自ら切り開こうとする力や自分と違う意見からも学んでいける力が必要になってくる。教育の成果はいつ現れるか分からないし、花開くタイミングも人それぞれ。今は見えていなくても「発達の連続性」として一人ひとり、子ども達の力として息づいている。自ら人生を切り開いていく子ども達の力を信じ委ね「待つ」ことも教師の大切な役割となる。